



illustrated by kurumi

『 たぶん全部わすれてしまうけれど 』 いのはなはるこ

「あの小3の時の野球の試合、惜しかったよね。」と中2の三男に言ったら。「そうだったけ？」と憶えていない。「広島に寄ったの楽しかったよね。」と話しても「行ったっけ？いつ？」と憶えていないそうです。憶えているのは、ケンカをして謝りに行ったこと。野球のコーチが怖かったこと。あそびの会に来ていたパパに訊いても「小学校の高学年のこともぼんやり」とのこと。強烈なイヤな記憶は残っていても、日々の記憶はほぼないようです。産まれてからずっとあんなに一緒に過ごしたのに？

オムツを替え、毎日食事を作り、病気の看病をして、旅行にも行き、体操着を洗い、誕生日を祝い、毎週グラウンドに応援に行き、...

そういう私も子どもの頃の記憶など曖昧なものです。怒られてイヤだったとか、クラスに嫌いな子がいたとか。日々のもっと楽しかったことや、周りのおとなに優しくしてもらったはずなのに。年長の4男ももう3才の記憶はほとんど忘れてしています。そうやって6人の子を育てたつもりでも、全部忘れられてしまうのです。

それでも。憶えていないだけで、全部残っているのだと思います。見えないだけで、実は自分の根っこは記憶のない時間で作られています。今の考え方・感じ方は記憶のない頃にほぼ作られているのです。着替え方・箸の持ち方・小さな子への声のかけ方。自分で自然に身につけたのではなく、ちゃんと誰かがいてくれたのです。抱っこして、一緒にお風呂に入ってくれて、頭をなでてくれた誰かがいたのです。

忘れてしまうんだな、と思うと寂しいですが、恩を売らずに。「これもきっと忘れちゃうんだろうな」と思いながらも、今年もクリスマスプレゼントどうしようかな。と悩んでいます。

harukoinohana1717@gmail.com